



長瀬平明*

暮らしを支えるネットワークの現状と展望

The Current Status and Future Scope of Network for Life and Society

Yoshiaki Nagase

要 旨

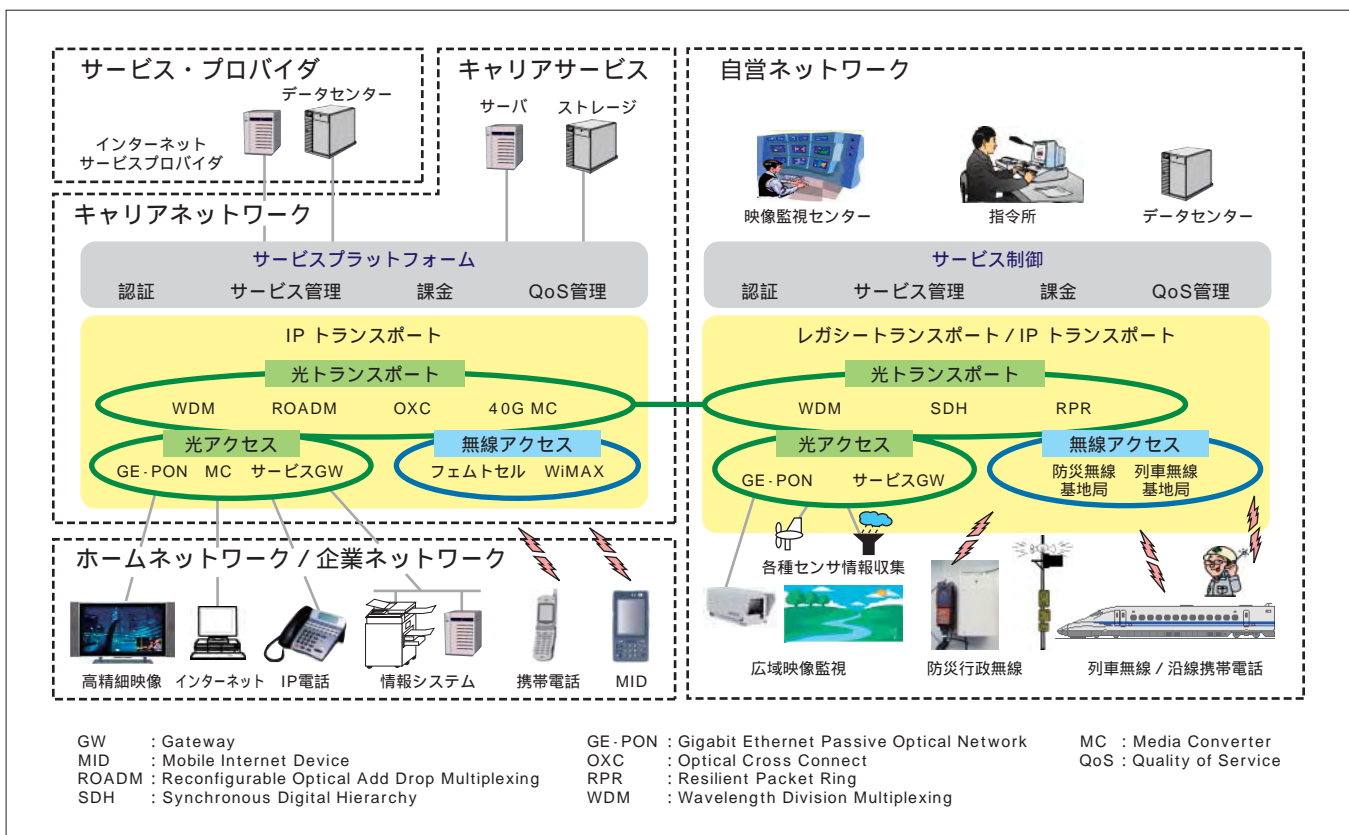
有線ネットワークに加えて、携帯電話を中心に無線ネットワークが急速に進展し、高速で大容量なサービスが場所を選ばず享受できる環境が整備されつつある。これによって、ユーザーのサービス利用形態がますます多様化するとともに、高度化しつつある。

今後サービス開始が予定されているモバイルWiMAX (Worldwide interoperability for Microwave Access), LTE (Long Term Evolution), 4G (第四世代携帯電話システム) 等のより高速、大容量な無線サービスは、ユーザーが享受できるサービスがより進化できる強いインパクトを持ったサービスとなる。また、これらを支える有線系のコア・アクセス方式として、光とIP (Internet Protocol) が

統合された新たな光アクセス、光トランスポート、IPトランスポートインフラの整備が進む。

有線系と無線系のシステムは今後IPで統合され、ユビキタスサービスとして、有線・無線の区別なく、様々な利用シーンで当たり前前の技術として広く人々の暮らしを支えていくことが期待される。

三菱電機は、これまでに蓄積した光技術、高速無線技術等を活用し、新サービスの展開に向けたユビキタスサービスインフラの技術開発、製品開発を進め、人々の暮らしを支える高度な社会インフラとしてのネットワーク作りを担っていく。



暮らしを支えるネットワークの実現例

IPトランスポート主体で構成される“キャリアネットワーク”と、レガシートランスポートとIPトランスポートが混在する“自営ネットワーク”は、IPベースの光トランスポートネットワークを介して接続され、IP統合ネットワークを構成する。ホーム/企業/業務の用途や、有線/無線の接続方法にかかわらず、様々な利用シーンに対して自在にサービス提供を可能とするユビキタスサービスインフラの構築を実現する。